

令和5年度 美術館評価調書

帯広美術館

A 優れた作品の収集と適切な保管

【基本的運営方針】

道東ゆかりの代表的な作家・作品及び国内外の版画やポスターを中心として近現代のプリントアート、並びに西洋の風景画、風俗画を収集する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
優れたコレクションの形成	・令和4年に寄贈の申し出のあった国内外の版画などプリントアートの作品の調査を進め、情報を収集したうえで、収集方針に基づく作品を収集する。	・R4度末開催のAGH展を契機に寄附の申出があった作品の資料収集と調査に努め、受入れのための検討会議を開催した。
所蔵作品の適切な保管	・所蔵品データベースの整備を進める。 ・日々の観察、記録、整理清掃を重視し、展示室や収蔵庫の適切な保管環境を維持する。	・収蔵品データベースの整備のため、作品の再撮影を行いデジタルデータの充実に努めた。 ・収蔵庫および展示室の定期的な観察、記録、整理清掃を徹底した。
コレクションの効果的な活用	・当館独自のオンラインアート教室事業などにより、コレクションを効果的に活用する。 ・新聞や雑誌への記事掲載によりコレクションを紹介し、来館者の増につなげる。	・帯広美術館独自のオンラインアート教室事業を周知するための展覧会を開催し、学校や社会教育施設に対してオンラインアート教室を実施し、コレクションとアートカードの活用に努めた。 ・コレクション展にかかわる連続講座（トーク&レクチャー）を開催し、コレクションの紹介に努めた。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値(a) 設定の考え方		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題	
優れたコレクションの形成	収集方針に基づく収集活動 [定性]	—	—	—	—	—	①	b 作品4点の受入により、コレクションの柱である「道東の美術」「プリントアート」が充実した。	B ・次年度以降もコレクションの調査研究を進めるとともに、さらにコレクション展等で活用していく。 ・次年度予定の施設修繕工事のための休館中は、積極的にオンラインアート教室を実施し、アウトリーチ活動に力を入れる
所蔵作品の適切な保管	所蔵品データベースの整備率	100.0%	100%	作品を収蔵した翌年度、速やかに整備する	100.0%	100.0%	①	a ・適切な維持管理のもと、展示室および収蔵庫の環境の変化に即時に対応し、文化財害虫の増加を抑制することができた。	
	適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復 [定性]	—	—	—	—	—	①	①	
コレクションの効果的な活用	コレクションの活用の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b ・帯広美術館独自のオンラインアート教室の利用件数が昨年度5件から今年度8件に増加した。	

令和5年度 美術館評価調査

B 多彩で特色ある展示活動の充実

帯広美術館

【基本的運営方針】

当館の収蔵作品を計画的に展示し、また国内外の優れた美術銀を幅広く紹介する特別展を開催するとともに、他の道立美術館と連携し、その所蔵品を紹介する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様なニーズに応える 展示会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 近代から現代まで、各分野の美術を紹介する特別展4本を開催し、来館者の層を広げる。 オンラインアート教室事業を推進するため「丘の上のミュージアム、とっておき10選」展を特別開催し、無料観覧とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主企画のテーマ展「見えない音を描く」ではコレクション活用や体験型展示の盛り込み、「リサ・ラーソン展」ではスウェーデンの工芸やデザインの紹介、「深堀隆介展」では現代日本美術の超絶技巧を紹介、「坂本直行展」では地域ゆかりの作家の掘り起こし、と年間を通じて多彩な展示会を開催した。 「丘の上のミュージアム、とっておき10選」会期中にオンラインアート教室事業を5件実施した。無料観覧としたことで、客層が広がった。
観覧者拡充のための工夫	<ul style="list-style-type: none"> オンラインアート教室事業等を通じて学校との連携を強め、観覧者に占める児童生徒の割合を増やす。 各種広報媒体やSNS等を活用し、幅広い層に情報提供する。 リモートミュージアムにより開催中の展示会を紹介する。 コンサート等のイベントを開催し、鑑賞以外の美術館の楽しみ方を提供する。 近隣の社会教育施設や商業施設に重点的に広報活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインアート教室を実施（年間で12件）し、学校との連携を強めた。 リモートミュージアムにより、開催中の展示会を紹介した（3件） 音をテーマにした展示会でコンサートを開催し、幅広い楽しみ方を提供した。
館外における鑑賞機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 他館や他施設からのコレクション貸出を積極的に行う。 他館や他施設から解説活動の要請に応じる。 美術館外での解説活動について周知し、要請に応じる。 オンラインアート教室を通して遠隔地の住民に鑑賞機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他館からの要請に応じ、コレクションの貸出を行った（3件） 美術館外での解説活動の要請に応じ、館外での解説活動、学校での鑑賞授業を行った（4件） オンラインアート教室を実施し、管外の学校にも鑑賞機会を提供した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]				評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方					成果・課題			
多様なニーズに応える 展示会の開催	展示会の観覧者数（※展示会毎の内訳は下表のとおり）	42,392	53,410	近年の同等程度の展示会を参考に算出	63,490	118.9%	①	b	・多彩な展示会を開催し、観覧者層を拡大して、昨年度の入館者数と観覧者の満足度を上回った。	B	・来館者数や満足度などのデータを参照し、引き続き多様なニーズに応える展示会の開催を検討する。 ・収蔵作品の調査研究を進め、多角的な活用を検討するとともに、広く美術館活動を周知して、観覧者の拡充に努める。
	観覧者の満足度	91.2%	100.0%	100%を目指す	95.1%	95.1%	②				
観覧者拡充のための工夫	観覧者に占めるリピーターの割合	28.8%	47.7%	過去5年間の最大値（1年以内の再来館者）	42.6%	89.3%	③	c	・子ども用の踏み台や車椅子利用の方用のキャプションファイルなど、多様な客層に配慮した展示を工夫したが、引き続き展示台の高さなどへの配慮を課題とする。		
	観覧者に占める児童生徒の割合	20.6%	21.4%	過去5年間の平均	13.8%	64.5%	④				
	展示の企画構成やPR等の工夫 [定性]	-	-	-	-	-	①				
館外における鑑賞機会の提供	館外における展示活動の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	b	・オンラインアート教室や美術館外の解説活動により、広く鑑賞機会を提供し、美術館の活動を周知できた。		

【展示会開催状況】

区分	展示会名	計 画				実 績				特記事項	
		会期	開催日数	観覧者見込数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	会期	開催日数	観覧者見込数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数		
常設展	ポスターに乾杯!	4月22日～6月11日	44	2,340 (510)	53	4月22日～6月11日	44	1,503 (144)	34		
	静かに流れる	6月24日～8月20日	50	2,160 (470)	43	6月24日～8月20日	50	2,220 (308)	44		
	Home	9月9日～11月19日	63	8,060 (1,740)	128	9月9日～11月19日	63	7,970 (1,687)	127		
	プレイバック平成☆十勝美術の30年	12月2日～3月10日	71	9,380 (2,020)	132	12月2日～3月10日	71	10,787 (2,451)	152		
	常設展計	-	228	21,940 (4,740)	96	-	228	22,480 (4,590)	99		
特別展	館単独主催展	丘の上のミュージアム、とっておき10選	4月22日～6月11日	44	2,500 (540)	57	4月22日～6月11日	44	1,919 (151)	44	
		見えない音を描く	6月24日～8月20日	50	2,800 (600)	56	6月24日～8月20日	50	2,468 (279)	49	
		坂本直行展	2月10日～3月10日	26	1,170 (250)	45	2月10日～3月10日	26	4,739 (236)	182	
	実行委員会展	リサ・ラーソン展	9月9日～11月19日	63	13,500 (2,880)	214	9月9日～11月19日	63	13,302 (1,254)	211	
		深堀隆介展	12月2日～1月28日	45	11,500 (2,460)	256	12月2日～1月28日	45	18,582 (2,235)	413	
	貸館展				()				()		
特別展計	-	228	31,470 (6,730)	138	-	228	41,010 (4,155)	180			
合 計	-	228	53,410 (11,470)	234	-	228	63,490 (8,745)	278			

令和5年度 美術館評価調書

帯広美術館

C 学習の場と情報提供の充実

【基本的運営方針】

講演会、講座、解説、ワークショップ、子ども向け事業等の教育普及活動、出版活動並びに図書資料閲覧や情報資料の提供等の事業を推進する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
教育普及活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な教育普及プログラムを企画実施する。 ・可能な範囲で、多くの人が参加できるように実施方法を工夫する。 ・教育普及プログラム参加者にアンケート調査を行い、内容や実施方法について状況を確認し、改善の目安とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出品作家による講演や、地域の作家によるワークショップなど、多彩なプログラムを企画した。 ・昨年度より座席数を増やし、整理券配布や事前申し込み制にするなど、参加しやすいような体制づくりを行った。
情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書コーナーに配架する図書の選定を見直し、整理を行う。 ・ホームページ、フェイスブックの更新を展覧会、イベントの開催ごとに行う。 ・新聞や情報誌への記事投稿、テレビやラジオの出演により情報発信を行う。 ・新たな情報発信先、媒体を開拓する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所蔵作家より図書寄贈の申出があったため受入れ作業を進行し、準備ができ次第、配架する。 ・展覧会やイベントごとにフェイスブックの更新を行った。 ・新聞に連載記事を投稿するなど、情報発信を行った。 ・新たに十勝総合振興局商工労働観光課に協力依頼をし、展覧会やイベントの情報提供を行った。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]		
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方								成果・課題
教育普及活動の充実	教育普及プログラムの実施件数	108	74	過去5年間の平均値	67	90.5%	③	b	<ul style="list-style-type: none"> ・開催展覧会の内容に即したイベントを企画した結果、幅広い層から多くの参加者があった。 ・昨年度好評を得た企画を、内容や方法を更新して開催したことで、利用者の認知度と満足度を高めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HP上で、展覧会と関連事業の一体性が伝わるような掲載となるよう、内容の改善を図る。 ・SNSによる情報発信が、停滞することのないよう、複数のSNSプラットフォームを使用するとともに、それぞれの特性に応じた、情報発信を検討する。
	教育普及プログラムの参加者数	5,385	7,911	過去5年間の平均値	10,497	132.7%	①				
	教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
情報提供の充実	ARS、図書コーナーの利用件数	109	228	開館日数×1件	127	55.7%	④	c	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな寄贈図書を受け入れることで、図書コーナーの充実を図ることができた。 ・開催展覧会の内容や想定される来館者層に即した広報活動を行った結果、予想を上回る来館者数の伸びに結びついた。 ・子どもを対象としたプログラムは一定数の利用者があり、今後も周知方法や内容の更新を課題とする。 ・展覧会やイベントごとにフェイスブックの更新を行ったが、技術的な問題が発生したために投稿がスムーズに行えず、投稿数自体は減少した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSによる情報発信が、停滞することのないよう、複数のSNSプラットフォームを使用するとともに、それぞれの特性に応じた、情報発信を検討する。
	利用しやすい図書・資料コーナーの整備	—	—	—	—	—	①				
	HPアクセス件数	188,285	195,806	過去5年間の平均値	162,038	86.1%	③				
	SNSの投稿数	72	106	過去5年間の平均値	20	27.8%	④				
	リモートミュージアムの公開件数	2	5	特別展ごとに作成	3	60.0%	④				
情報発信の工夫改善 [定性]	—	—	—	—	—	①					

令和5年度 美術館評価調書

D 活動の基礎となる調査・研究の推進

帯広美術館

【基本的運営方針】

主として当館のコレクションの柱である道東の美術、プリントアート、西洋の風景画・風俗画について調査・研究を行う。
また、美術館活動に関する調査・研究を行う。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
調査・研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員による調査・研究の成果を展覧会や作品収集に反映する。 学芸員の博物館学的知識習得や技術研鑽のため、文化庁などが主催する研修会に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員による調査研究の成果を展覧会（自主企画展「見えない音を描く」、自主企画展「坂本直行展」）、作品収集（版画「道東の美術」）に反映した。 文化庁主催のIPM研修に参加し、文化財害虫への対処に関する最新の知識を習得した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a) 設定の考え方		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価(※定量指標がないため最高評価はb) 成果・課題		総合評価
調査・研究の推進	学芸員による調査・研究の報告や発表の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b <ul style="list-style-type: none"> 自主企画展のための調査研究に努め、成果を展覧会や図録等で発表した。 IPM研修で得た知識を当館における文化財害虫の調査に活用しているところであり、今後も、積極的に研修に参加するなど、学芸員の更なる質の向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、調査研究及び研修の充実を図り、美術館活動の充実に努める。
	学芸員の研修等の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			

令和5年度 美術館評価調書

E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

帯広美術館

【基本的運営方針】

地域の各種学校、博物館施設、文化団体等との連携をもとに、地域文化の振興と活性化を図る。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況
多様な機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> 美術館利用者の拡大を図るため、公園内施設と連携した事業を行う。 ボランティア団体との連携、美術館利用に結びつく事業を提案する。 美術館振興会と連携し、展覧会関連事業やイベントを企画する。 宿泊業者、交通事業者とタイアップしたPRを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> おびひろ氷まつりにおいて、公園内施設（百年記念館、児童会館、みどりと花のセンター）と連携したスタンプラリーを行った。 帯広美術館ボランティア「しらかばの会」と連携し、親子で利用できるキッズ・ミュージアムやワークショップを行った。 帯広美術館振興会と連携し、複数の展覧会関連事業を行うほか、地域イベントへの協賛事業を行った。 交通費とのバック料金設定（十勝バス、道新観光）、スタンプラリーの実施（NEXCO東日本）、観光情報誌（じゃらん）への掲載など、他業種と連携したPRを行った。
学校等の教育機関との連携・支援	<ul style="list-style-type: none"> 高校生や大学生のボランティアを活用できる事業を実施する。 インターンシップや博物館実習生の受入を積極的に行う。 アートカードの利用促進を図るため、周知方法を検討する。 社会教育機関と連携したオンラインアート教室を実施する。 キャンパスパートナーシップを有効に活用してもらうため、パートナー館と連携し解説等の事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップの受入を行った（5件） 遠隔地の「放課後子ども居場所事業」の子どもたちにオンラインアート教室を実施して鑑賞機会を提供した（1件）。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題		総合評価
			設定の考え方							
多様な機関との連携・協力	地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b ・館外の施設と連携し、アウトリーチ活動を行うことで、美術館活動の周知につなげた。 ・ボランティアと連携協力し、日頃の活動の成果を展覧会で活用した。 ・道内美術館からの要請に応じて当館所蔵品の調査に協力し、希望作品を貸し出した。	B ・引き続き、多様な機関と連携・協力を図り、地域文化の振興と活性化に資するよう努める。 ・引き続き、ボランティア事業に協力するとともに、その活動の場を提供する。 ・適宜、学校のニーズを把握しながら、オンラインアート教室の効果的な実施に努める。	
	企業や団体等と連携したPR活動 [定性]	—	—	—	—	—	①			
	道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			
	ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			
学校等の教育機関との連携・支援	学校教育と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	c ・オンラインアート教室で、UDトークを併用した授業を行うなど、新たな試みを行うことで、オンラインアート教室の更なる可能性を展開した。 ・教員を対象とした研修を実施し、オンラインアート教室等の美術館活動について情報提供を行うとともに、学校側の情報収集の現状を確認した。		
	児童生徒向け鑑賞教室（オンラインを含む）の実施件数	46	65	オンライン20回 解説45回	44	67.7%	④			
	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1	2	働きかけを行い1校増を目指す。	1	50.0%	④			
	教員を対象とした研修の実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			

令和5年度 美術館評価調書

F 安全で快適な滞在環境の提供

帯広美術館

【基本的運営方針】

緑豊かな公園内の文化ゾーンに立地している利点を生かし、芸術文化にふれあう場としてふさわしい環境整備に努め、ホスピタリティあふれる高質な時間と空間を提供する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
施設の適切な維持管理	・安全保持や環境整備のため、日常的な点検を行い設備管理委託業者と情報を共有する。	・日常の点検による安全保持のほか、施設設備の補修や修繕を行い、適宜、その状況を委託業者と共有し、適切な施設設備管理に努めた。
施設の快適性の向上	・公共スペースの什器を計画的に更新する。 ・アンケートによる意見等を職員及びボランティア団体と共有し、展覧会・事業の運営方法やスタッフの対応を改善する。 ・職員の研修やガイダンスを行う。	・展覧会毎の来館者の動線を考慮し、適切な場所に休憩スペースを配置するよう努めた。 ・各展覧会毎に開催日前日に職員及びボランティア団体を対象としたガイダンスを行い、留意事項の共有を図った。 ・アンケート結果を職員内で共有した他、ボランティア団体に関連する事項については、随時、共有を図った。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題		総合評価
			設定の考え方							
施設の適切な維持管理	施設の安全性確保のための必要な措置の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b ・ロビー窓枠に腐食が認められたため、修繕を行い、周辺部分の補強を行うとともに、施設課の技師による安全点検を行い、館内の安全は確認されたものの、全体的に老朽箇所が散見し、大規模な修繕が必要。 ・来館者用車椅子、ベビーカーを配置するとともに、車椅子等の動線に配慮したレイアウトを行っている。	B	
	誰もが安心して利用できる施設設備の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			
施設の快適性の向上	鑑賞環境に対する満足度	97.5%	100.0%	100%を目指す	95.6%	95.6%	②	c ・ボランティアしらかばの会の協力の下、特別展における特別メニューの提供を行った。 ・ミュージアムショップにおいて、キャッシュレス決済など複数の決済手段の導入を図ったものの、不具合が多く発生した。 ・子供ファストトラックの取組として、小さなお子様を連れの来館者へ声かけを行い、必要な支援の把握に努めた。	B	
	レストラン・喫茶に対する満足度	80.2%	100.0%	100%を目指す	87.5%	87.5%	③			
	ミュージアムショップに対する満足度	89.3%	100.0%	100%を目指す	78.8%	78.8%	④			
	ボランティアや事業者と協力してのサービス向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			
	館内スタッフの対応に対する利用者満足度	95.3%	100.0%	100%を目指す	92.4%	92.4%	②			
	ホスピタリティー向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			